

2023年4月 診療カレンダー

住所: 東京都中央区日本橋大伝馬町13-8
 メディカルプライム日本橋小伝馬町3階
 TEL:03-3639-3110 FAX:03-3639-3112

2023年5月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

公費の带状疱疹ワクチンもぜひ当院でお待ちしています

ホームページ
院長ブログ公開中

18時最終受付

日	月	火	水	木	金	土
30	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

「今月の言葉」
 元気であるか 街には慣れたか
 友達出来たか 寂しくないか お金はあるか
 今度いつ帰る
 ~ さだ まさし(案山子より) ~

一般診療	月	火	水	木	金	土	日
10:00-13:00	●	●	●	●	●	●	×
15:30-19:00	×	●	●	●	●	×	×

お知らせ
 ・4/29(土)~5/5(金) ゴールデンウィーク休診
 ・带状疱疹ワクチン、シルガード9(子宮頸がんワクチン)
 公費接種可能です。詳しくはお問い合わせください。

初めての一人暮らし

今年は例年より早く桜が咲き東京では3月22日頃に満開となりました。この原稿を書いている4月3日の段階では満開から1週間ほど経っていますが、クリニックの近所の歩道にも桜を見ることができます。今日3日は入社式が行われるところも多いようで、真新しいスーツに身を包んだ若者を沢山見かけました。このクリニック通信を手にとられた方のなかにもこの春新しい門出を迎えられた方がいらっしゃるかもしれません。先月号のクリニック通信でも触れましたが、我が家でも長男が高校を卒業してこの4月から大学生となりました。正直のところ長男は私と同じように浪人生活を送るか、第一志望ではない家から通える範囲の都内の大学に行くと思っていたのですが、入試の最後、まさかの逆転サヨナラホームランがあり、第一志望である地方の国立大学に合格をいただくことができました。3月は卒業式やら卒業祝いの食事会、入学手続きや引っ越し手続きなどで慌ただしく過ごしました。

自分のときは当時は電報で合格通知を受け取った後に母と一緒に札幌まで行き、大学生協で紹介してもらったアパートをひとまず契約し、いったん帰宅してその後引っ越しの手続きなどをしてから再度札幌に行き、梱包を解いたり、ガス会社の人 came たり毎日バタバタしていたのを思い出します。新居は北大構内が見える立地の良い場所でしたが、誰も知り合いない孤独ななか札幌の街を歩き回ると、(都民ではなかったですが、予備校で毎日東京へ通っていましたので)東京と比べて人が少なく、無性に心細い思いをしたものです。話をする相手は家族くらいですが、今と違ってLINEや、無料通話、ビデオ通話もなく、遠距離電話はお金が高いので通話は最小限。何とも寂しい思いをしたものです。ただ入学式が行われクラスが集まると、偶然にも予備校の同級生?くんもいて友達もすぐにできましたし、授業やサークル活動などで忙しくなるといつしか寂しさも感じなくなり、実家への電話も少なくなりました。

私がひとり暮らしをしていたところはワンルームマンションのようなところだったので、食事は基本自炊です。ということで母親は炊飯器、寸胴鍋やフライパン、包丁などを用意してくれてガスコンロも購入しました。ガスコンロのセッティングにきてくれた業者さんは、「この魚焼きグリルではパンも焼けます」と丁寧に説明してくれたのですが、魚焼きグリルはその後一度も使うことも

なく6年間を過ごしてしまいました。高校時代は料理好きを自認していたのですが、部活動や勉強などで忙しく結局自炊はあまりせず、寸胴鍋はテスト期間中に大量のカレーや豚汁などを作るときに登場するくらいで、食事はほぼ大学の食堂や近くのコンビニや外食に頼ってしまいました

私が大学生の頃は一人暮らしの学生は、女子には民家の寮がありました。男子は恵迪(けいてき)寮などの学生の自治寮くらいしかありませんでした。しかし最近では男子でも食事付き、家具付きの民家の寮(学生会館)もあるようで、息子はそちらへ入居することにしました。こちらに入れば食事の心配はありませんし、いざというときに相談できるスタッフがおり、セキュリティなども気を使っているようです。

そんなわけで先日の週末、早朝の新幹線に乗り、荷物運びと見送りをかねて家族全員で息子と一緒に新しい部屋を訪問しました。最低限のものは揃っているといってもやはり細々としたものは必要で、家族総出で街中を歩きまわって買い物をし、新生活準備をしました。夕方ようやく一息つくことができ、夜は駅ビルのレストランで最後の夕食となりました

これまで保育園、小学校、中学校と少しずつ成長とともに自立への階段を上ってゆきましたが、家にいるのが当たり前だった息子が、もう今夜から別々なところに帰って行くんだな、しばらくは一緒に食事することもないんだな・と思うとしみりてしまい、夕食の終わりの方から私も妻も涙がとまらなくなりました。彼がひとりで帰っていく後ろ姿を3人で見送り、その姿が見えなくなる直前に娘が息子の名前を大きく呼ぶと、彼は照れくさそうに振り返って手を振って地下通路を歩いていきました。この彼の後ろ姿を私も妻も生涯忘れることはないと思います。

東京へ帰る新幹線のなかで妻と二人で涙をしていると、娘からは「戦争に行くわけでもないのに」と笑われてしまいました。確かに我々はまだ子離れが出来ていないのかもしれませんが。親としての先輩である患者さんからは、「今度会うときは成長した息子さんに会えると思いますよ」と温かい励ましの言葉をかけていただきました。でも子供の巣立ちには嬉しい反面、何だか心がえぐられるくらいに寂しくて辛いものですね。今さらながら30年以上前に自分を遠い北海道へ送りだした両親の気持ちに思いを馳せました。

新しい生活を歩き出すすべての人たちが、体も心も壊すことなく無事に元気な第一歩を踏み出せるように心から願っています。